

<第3分科会>

ICTを活用した効果的な指導について

広島県特別支援学校教育研究会第3研究グループ

1 はじめに

広島版「学びの変革」アクション・プランでは、「主体的な学び」を促す教育活動の推進を目指している。しかし、特別な支援が必要な児童生徒は、「学習意欲」「学びに向かう力」に困難が起きやすい。学習意欲に関して、桜井茂男（1997）は、学ぶ意欲を支える三つの要素として、「有能感」「自己決定感」「他者受容感」を挙げている。さらに、平成28年度広島県教育資料によると、課題発見・解決学習は、学習意欲や社会を生き抜くために必要な資質・能力の育成に期待がもてるとある。そこで、本グループは、「主体的な学び」や「学習意欲」に注目し、課題発見・解決学習を行いながらICTの効果的な活用を目指すこととした。

2 研究仮説

課題発見・解決学習においてICTを効果的に活用することで、学習意欲が高まり、主体的な学びに繋げることができるだろう。

3 研究方法・研究内容

所属校の障害種、学部等を考慮してグループを二つに分け、各班で仮説検証を行った。

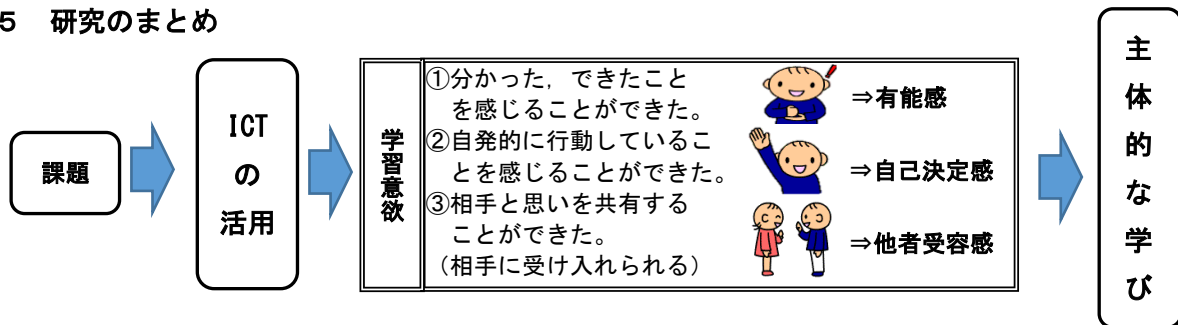
	研究仮説を検証するために設定した各班の仮説	ICTの活用方法
I 班	ICTを活用して振り返りを行うことで、児童生徒が主体的に課題を見付け、解決する力を身に付けることができるだろう。	振り返りのためのツール
II 班	ICTを活用して児童生徒が意志を表現し合えば、思考力が深まるだろう。	コミュニケーションのためのツール

4 研究の成果（各班一事例ずつを抜粋）

	教科・領域 (使用機器)	児童生徒の変容	主体的な学び
I 班	美術 I (PC, ペンタブレット, スクリーンショット機能), 使用ソフト: GIMP2	①自分の力で作品を完成させることができた。 ②表現したい課題（質感, 奥行き感など）に自ら気づき, 技法を自ら選択して表現できた。 ③周囲から称賛の言葉をもらい自信がついた。 ★振り返りを通して, 自ら課題に気づき, 表現技法を活用しながら, 作品を制作することができた。	○学校祭のポスター制作でイラストを描くなど, 自分の力でできた経験が新たな挑戦につながった。
II 班	自立活動 (タブレット型端末) 使用アプリ: DropTalk	①タブレット型端末を活用することで, 自分の学習課題達成のために必要な物を教師や友だちに伝えることができた。 ②相手に応じて, 発信方法を選択して伝えることができた。 ③友だちに自分の思いが伝わる喜びを感じることもできた。 ★何度も試行し, 相手を考えながら自分に必要なカードを探そうとするなどの思考する力が深まった。	○朝の会や帰りの会, 友だちの名前を呼ぶ際にも, 本人が必要に応じて, 活用をしている。

★は、仮説に対しての評価

5 研究のまとめ



6 今後の課題

- ・児童生徒に、より質の高い反応が得られる機器やアプリ、発達段階に応じた活用方法の精選。
- ・児童生徒の新たな「主体的な学び」を導くICTの活用。